

1950-1970年代の絵本 絵本画家いわさきちひろ

2023年6月3日(土)～9月3日(日)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

主催：ちひろ美術館

さざなみのような画風の流行に左右されず、何年も読みつづけられる絵本を、せつにかきたいと思う。もっとも個性的であることが、もっとも本当のものであるといわれるように、わたしは、すべて自分で考えたような絵本をつくりたいと思う。

いわさきちひろ 1964年



1-1 カーテンにかくれる少女「あめのひのおるすばん」(至光社)より 1968年

絵本の可能性を求めて—— 日本の絵本の隆盛期を支えた画家いわさきちひろの軌跡

いわさきちひろが絵本を描いた1950年代から1970年代は、日本の絵本が大きく花開いていった時代でした。

第二次世界大戦の敗戦後、欧米の優れた絵本が紹介されるようになり、日本でも一冊すべてをひとりの画家が描く絵本への模索が始まりました。戦前からの子どもの本の主流であった「絵雑誌」で童画家として活躍していたちひろも、1957年に初めての絵本『ひとりのできるよ』を出版します。

1960年代からの高度経済成長とともに絵本の出版は増加し、絵本は黄金時代を迎えます。1960年代半ばには、ちひろの仕事の中心も絵本に移り、新しい絵本の可能性を求めて1冊ごとに新たな挑戦を続けました。1968年には、自分で文章も手がけた初めての絵本『あめのひのおるすばん』を出版、当時の主流であった物語絵本とは違う「感じる絵本」という新たなジャンルも切り拓きました。

本展では、ちひろの代表的な絵本を、ちひろ自身や当時の編集者のことば、資料とともに、時代を追って紹介します。1950年代から1970年代の日本の絵本の隆盛期に、新しい絵本の可能性を求めて絵本づくりに取り組んだ絵本画家いわさきちひろの仕事をご覧ください。

展覧会の見どころ

ちひろの絵本の仕事をたどる

初めての絵本『ひとりのできるよ』から、産経児童出版文化賞を受賞した『あいうえおのほん』、モノクロームで文学の世界を描き出した「若い人の絵本」、反戦の思いを込めて描いた『戦火のなかの子どもたち』まで、ちひろの絵本画家としての足跡をたどる上で重要な絵本を一堂に展示します。

ちひろの実験劇場 至光社の「感じる絵本」

1968年から亡くなる前年の1973年まで、毎年、新境地を目指して、新たな試みに挑戦した至光社の絵本シリーズ。反転やトリミングなどの印刷技術も駆使した『あめのひのおるすばん』と、パステルの大胆なタッチで描いた『となりにきたこ』を展示します。

編集者たちが語る「絵本画家ちひろ」の姿

書籍『ちひろさんと過ごした時間』やちひろを語った証言映像などに、ちひろと仕事をした編集者たちが、当時のようすを語ったことが記録されています。作品とともに、これらのことばも展示し、ちひろの絵本画家としての姿を紹介します。

出展作品数

約60点

主な出展作品

- ・『ひとりのできるよ』(福音館書店)より 1956年
- ・『りゅうのめのなみだ』(偕成社)より 1965年
- ・『絵のない絵本』(童心社)より 1966年
- ・『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年
- ・『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年



1-2 手紙をポストに入れる男の子
『ひとりのできるよ』(福音館書店)より 1956年



1-3 りゅうに乗る男の子
『りゅうのめのなみだ』(偕成社)より 1965年



1-4 そっぽを向く少女
『となりにきたこ』
(至光社)より
1970年



1-5 戦火のなかの少女
『戦火のなかの子どもたち』
(岩崎書店)より
1973年



1-6 くちもとに指をそえた少女
『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年



いわさきちひろ (1918～1974)

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。1956年小学館児童文化賞、1961年『あいうえおのほん』産経児童出版文化賞、1973年『ことりのくるひ』(至光社)でポローニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。代表作に『おふろでちゃぶちゃぶ』(童心社)、『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)などがある。

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 畔柳・田邊・山本・松本

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

ちひろ美術館セレクション

2010 → 2021 日本の絵本展

2023年6月3日(土)～9月3日(日)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4

主催：ちひろ美術館

協力：BL出版、あかね書房、アリス館、岩崎書店、偕成社、くもん出版、講談社、小峰書店、集英社、スイッチ・パブリッシング、
玉川大学出版部、童心社、福音館書店、プロンス新社、ポプラ社、理論社

2-1 きくちちき 「しろとくろ」(講談社)より 2019年

2010年以後を象徴する 29組の日本の作家による作品が 一堂に会する展覧会

2011年の東日本大震災から始まった激動の2010年代。子どもを取りまく環境も大きく変化しました。画家たちは新しいテーマや表現に挑戦し、絵本をとおして今を生きる子どもたちに向けたメッセージを発信しつづけています。絵本の世界では、新しい世代のつくり手たちのめざましい活動も印象づけられました。また2010年代をとおして、「3.11」や「福島」を取りあげた絵本や真摯にいのちと向き合う絵本、過去の戦争に焦点を当て平和の在り方を問う絵本など、時代を表す作品も生まれました。

ちひろ美術館では、10年ごとに時代を代表する絵本を紹介する展覧会を続けてきました。3年の延期を経て開催する本展覧会では、時代に求められた多様な表現に焦点を当て、2010年から2021年に出版された作品のなかから、注目を集めた絵本や、今後も活躍が期待される作家の作品を紹介します。



2-2 植田真 「ひばりに」(アリス館)より 2021年



2-3 tupera tupera 『わくせいキャベジ動物図鑑』(アリス館)より 2016年

展覧会の見どころ

3.11以後の日本の絵本

2011年に起こった東日本大震災のつめ跡は、今も大きく残されています。「3.11」や「福島」をテーマにした作品、そしていのちの尊さを問う作品に焦点をあてます。

新しい世代の台頭

この10年間で日本の絵本の世界では、新しい世代のつくり手たちのめざましい活躍も印象づけられました。本展では、きくちちき、tupera tupera、みやこしあきこ、ミロコマチコ、ヨシタケシンスケら2010年代に注目を集めた作家の作品を紹介します。

戦争、コロナ禍、そして未来へ

特定秘密保護法や憲法改変の動きなどを受けて、子どもの本に関わる人々の間でも平和を守るための議論が行われ、過去の戦争をテーマにした絵本が描かれました。また、コロナ禍にあって、子どもから大人まで多くの人に共感を得た希望の光を照らす絵本も生まれました。画家たちが絵本に託した、今を生きる子どもたちに向けたメッセージや、絵本表現のあらたな可能性を伝えます。

出展作品数

約100点

関連展示

本展は、ちひろ美術館・東京へ巡回します。＊出展作品は一部入れ替えがあります。
東京会期：2023年10月7日（土）～2024年1月14日（日）

関連書籍等

- ・『2010→2021日本の絵本展』図録（ちひろ美術館・編）6月3日発行予定
- ・本展の特設サイトを開設し、出展作家のインタビュー動画等も掲載予定

主な出展作品（作家名50音順）

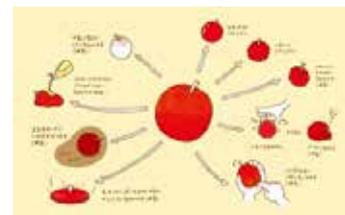
- ・阿部海太 『めざめる』（あかね書房）
- ・荒井良二 『なんていいんだぼくのせかい』（集英社）
- ・安野光雅 『しりとりに』（福音館書店）
- ・伊藤秀男 『はしれ、上へ！つなみてんでんこ』（ポプラ社）
- ・井上洋介 『つきよのふたり』（小峰書店）
- ・植田真 『ひばりに』（アリス館）
- ・上村亮太 『アネモネ戦争』（BL出版）
- ・片山健 『とくとくくん』（福音館書店）
- ・きくちちき 『しろとくろ』（講談社）
- ・酒井駒子 『まばたき』（岩崎書店）
- ・しおたにまみこ 『たまごのはなし』（ブロンズ新社）
- ・junaida 『の』（福音館書店）
- ・スズキコージ 『ドームがたり』（玉川大学出版部）
- ・田島征三 『ぼくのがきがきこえますか』（童心社）
- ・田島征彦 『ふしぎなともだち』（くもん出版）
- ・館野鴻 『つちはんみょう』（偕成社）
- ・田中清代 『くろいの』（偕成社）
- ・tupera tupera 『わくせいキャベジ動物図鑑』（アリス館）
- ・出久根育 『かえでの葉っぱ』（理論社）
- ・長谷川義史 『へいわってすてきだね』（ブロンズ新社）
- ・はたこうしろう 『あなたがおとなになったとき』（講談社）
- ・堀川理万子 『海のアトリエ』（偕成社）
- ・町田尚子 『ネコツメのよる』（岩崎書店）
- ・松本大洋 『「いる」じゃん』（スイッチ・パブリッシング）
- ・三浦太郎 『ちいさなおうさま』（偕成社）
- ・みやこしあきこ 『もりのおくのおちゃかいへ』（偕成社）
- ・ミロコマチコ 『ぼくのはふとんはうみでできている』（あかね書房）
- ・村上康成 『まっている。』（講談社）
- ・ヨシタケシンスケ 『りんごかもしれない』（ブロンズ新社）



2-4 ミロコマチコ
『ぼくのはふとんはうみでできている』
（あかね書房）より 2013年



2-5 上村亮太
『アネモネ戦争』（BL出版）より 2020年



2-6 ヨシタケシンスケ 『りんごかもしれない』
（ブロンズ新社）より 2013年

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

＊必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。＊トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

＊データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。＊掲載紙／誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 畔柳・田邊・山本・松本

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773（業務用） FAX 0261-62-0774

E-mail：apublicity@chihiro.or.jp

ちひろ美術館コレクション 熱帯の国々の絵本

2023年6月3日(土)～9月3日(日)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室3

主催：ちひろ美術館

暑い国の、熱くて楽しい 絵本の世界を見てみよう！

2023年が日本とベトナムの外交関係樹立50周年であることを機会として、ベトナムの画家・タ・ヒー・ロンが描いた『姫君と望遠鏡』を中心に、赤道に近い熱帯の国々6カ国の作品を、ちひろ美術館コレクションのなかから展示します。パプアニューギニアのマーロン・クエリナド『原生林で育って』、スリランカのシビル・ウェッタシンハ『かさどろぼう』など、豊かな自然や地域独特のくらしのなかで描かれた、ユニークな作品をお楽しみください。



3-1 タ・ヒー・ロン (ベトナム)『姫君と望遠鏡』より 2008年



3-2 シビル・ウェッタシンハ (スリランカ)『かさどろぼう』(徳間書店)より 1986年



3-3 ウェン・シュウ (コスタリカ)『ナディとシャオラン』より 2008年

展覧会の見どころ

日越外交関係樹立50周年を機に、ベトナムの絵本に注目！

なんでも見える望遠鏡を持つ姫君。3日間見つからなければ姫君と結婚することができると聞き、やってきた王子はどうやって難題を解くのでしょうか？『姫君と望遠鏡』はベトナムのイラストレーター、タ・ヒー・ロンが描いた絵本で、2009年に野間国際絵本原画コンクール佳作に選ばれました。姫君や王子の衣装や建物に、ベトナムの文化がうかがえます。動物や人の動きも楽しい絵本です。

絵本を通して文化交流を！

コスタリカの絵本『ナディとシャオラン』はパナマの学校に通う先住民族・クナ族の女の子と、中国人の女の子が主人公の物語。クナ族の女性たちがつくる伝統刺繍“モラ”の色彩や文様と、画家のルーツでもある中国の伝統の切り絵“剪紙”をコラージュに 응용しています。台湾で生まれたウェン・シュウは、異なる背景を持つ二人の少女が、心と文化を交流させていく姿を描いています。

出展作品数

26点 (予定)

主な出展作品

- ・タ・ヒー・ロン (ベトナム)『姫君と望遠鏡』より 2008年
- ・ウェン・シュウ (コスタリカ)『ナディとシャオラン』より 2008年 未刊行
- ・シビル・ウェッタシンハ (スリランカ)『かさどろぼう』(徳間書店)より 1986年
- ・マーロン・クエリナド (パプアニューギニア)『原生林で育って』より 1999年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 くろやなぎ たなべ 畔柳・田邊・山本・松本

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

ちひろ美術館セレクション 2010→2021 日本の絵本展 関連イベント

はたこうしろうミニトーク&サイン会

学芸員によるギャラリートークのゲストに絵本作家はたこうしろうさんをお迎えし、『あなたがおとなになったとき』（講談社2019年）についてお話いただきます。

日時：7月29日(土) 15:00～16:00
会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4
参加費：無料(入館料別)
定員：30名/申し込み：不要(自由参加)

講師：はたこうしろう

1963年生まれ。絵本作家・イラストレーター。ブックデザインの仕事も多数。絵本に『なつのいちにち』『はるにあえたよ』『ぼくはうちゅうじん』『はじめてのオーケストラ』『どしゃぶり!』『わたしたちのカムフラージュかん』『こんにちわ!わたしのえ』『いたずらのすきなけんちくか』『二平方メートルの世界で』『ぼくとがっこう』など。



はたこうしろうワークショップ 世界にひとつの絵本をつくろう!

絵本作家はたこうしろうさんを講師にお迎えし、見たことのない「ヘンテコでびっくりするような絵本」をつくりまします。子どもも大人も、型にはまらず、自由に創作する楽しさを体験してみましょう。

共催：松川村図書館
日時：7月30日(日) 13:00～15:00
会場：松川村・すずの音ホール
参加費：500円(材料費込)/定員：30名
対象：年齢制限なし
※未就学児も保護者も1人1冊、絵本をつくりまします。
申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)



そのほかのイベント

ちひろ忌 8月8日(火) 9:00～17:00

2023年8月8日、いわさきちひろ(1918～1974)がこの世を去って、49年目の夏を迎えます。当日は、館内にちひろの写真を飾り、ちひろが生涯願った、世界中の子どもたちのしあわせと平和への思いをご来館のみなさまと分かち合う一日にします。

夜のミュージアム 8月19日(土) 9:00～20:00

開館時間を延長して20時まで開館します。夕暮れどきからライトアップされた幻想的な夜の美術館(設計：内藤廣)で、ゆったりとした時間をお楽しみください。ちょっとこわいおはなしの会や、安曇野ちひろ公園で「トットちゃんの肝だめし」も開催します。浴衣でご来館の方には、絵本カフェのワンドリンクチケットorショップ10%OFFチケットをプレゼントします。*絵本カフェは19:00まで

学芸員によるスライドトーク

日時：6月25日(日)・7月16日(日)
14:00～15:00(14:00～ちひろ展/14:30～企画展)
参加費：無料(入館料別)/定員：30名
申し込み：不要

学芸員が開催中の展覧会の見どころを、スライドを用いてわかりやすく解説します。

絵本のじかん

日時：毎月第2・4土曜日 11:30～12:00
参加費：無料(入館料別)/定員20名/申し込み：不要
季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみください。

安曇野ちひろ公園 イベント

おでかけホリデー

安曇野ちひろ公園にて、5月～10月の毎月第4土曜日に開催します。食体験や火おこし体験、野菜の収穫体験におさんぽ会やマルシェなど楽しいイベントが盛りだくさん!

夏のイベント

- ・7/22(土) トットちゃんの夏祭り
- ・8/19(土) トットちゃんの肝だめし

雨天・天候不良等の場合は中止することもあります。



ねぎぼうずと妻と子どもたち
1960年代半ば

安曇野ちひろ公園イベント

お問い合わせ先 TEL.0261-85-8822 最新情報 chihiro-park.org

※上記のイベントおよび開館情報、会期、展示名は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

展覧会基本情報

展覧会名 1950-1970年代の絵本
絵本画家いわさきちひろ
ちひろ美術館セレクション
2010→2021 日本の絵本展
ちひろ美術館コレクション
熱帯の国々の絵本

会期 2023年6月3日(土)～9月3日(日)
※会期は予告なく変更になる場合があります。
○開館時間=10:00～17:00
○休館日=水曜日(祝休日開館、翌平日休館)
※GW(4/29～5/7)と8月は無休、
9:00～17:00開館

入館料 大人900円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳ご提示の方、介添えの方1名まで無料/年間パスポート3000円



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 くろやなぎ たなべ 畔柳・田邊・山本・松本

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24
TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774
E-mail: apublicity@chihiro.or.jp